

『心筋梗塞 フォーカスメディカ 疾患解説アニメーション』

3D ゲーム世代の学生を “看護の世界”に 引き込む格好の DVD

日本語版監修：齊藤 穎・安藤英之／定価 9,975 円(CD-ROM 本体 9,500 円+税 5%)
発行：テクノミック／TEL：03-3538-2531／<http://www.technomics.co.jp>



平成 21 年度カリキュラム改正によって、基礎教育における看護実践能力の育成はますます切実な課題として日々の授業構成に悩んでいる教員の方も多いと考えられる。在院日数短縮の中で、短期間に複数の疾病をもつ患者に対しさまざまな知識を統合し、エビデンスに基づいた看護を提供することが必要とされ、看護職の的確な「判断力」の育成は、専門職の責務としてますます重要な課題である。特に心筋梗塞の患者を救うためには治療を受けるまでの時間を短縮すれば、有意に死亡率を低下させることができる。そのためにはフィジカルアセスメントをする力がなければ、目の前で胸痛を訴えている患者が緊急を要するの否かさえ判断することは困難である。アセスメント力の基盤のひとつには、身体のしくみとはたらきや病態生理学の知識の理解がある。ところが、それらは皮膚に覆い隠されていてイメージをするしかない。学生は“心臓や循環は嫌い、複雑でイメージしにくいしわからない”などと平気で言うのける。循環の構造と機能が理解できなければ、患者が訴える呼吸困難や呼吸音の異常やその緊急性の判断や安楽にできる体位さえわからず、役に立つことはできないのに。“もし心臓が立体的に動く画像があればしつこく説明しなくてもいいのに……”，と感じていた。

本 DVD はまさしく、リアルな心臓が 3D で滑

らかにポンプとして動き、それも前後左右どこからでもぐるりと見ることができ、冠状動脈もブランクが破綻する様子がよくわかる。内容としても病態メカニズムと病因、リスクファクター、検査診断と治療法から予防法までがコンパクトに分かりやすく解説されている。実際の映像ではかえって理解しにくくなることがある身体の構造機能や病態メカニズムは立体的な模式化映像のほうがわかりやすいと感じるし、アニメーションもモデルが欧米人であることでリアル過ぎない映像となり、初学者や一般人にとっては臓器や血液に触れることでの負担が少ないであろう。いまや授業は平面的なものではなく、DVD の出現によって VTR 映像よりも更に必要な箇所を適時必要最小限に切り取って利用しながら学生のイメージを助ける時代である。3D ゲーム世代の学生にはもはや「当然でしょ」というものなのかもしれない。

本 DVD のみで看護に必要な病態知識をすべて学習することはできないが、学生が心臓に対して関心を示す端緒になるだろう。診療ガイドラインで確認しながら、100 回／分の絶え間ない胸骨圧迫や AED を用いた救急対応などの説明を追加することでエビデンスに基づいた学習を助けることもできる。まず学生の興味関心を刺激することで、生命を救うという素晴らしい判断ができる看護の世界に引き込むには格好の教材である。